


# 京都嵯峨芸術大学 広報

本学関係者による展覧会情報	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■大沼憲昭／日本画 『大沼憲昭日本画展』日時:9月22日(水)～28日(火) 会場:京都高島屋(京都)</li> <li>■京都嵯峨芸術大学 芸術学部／造形学科 日本画分野 『京都嵯峨芸術大学 日本画作品展』 日時:7月20日(火)～25日(日) 会場:池坊学園むろまちアートコート(京都) ※造形学科日本画分野の日本画制作と伝統創作3～4回生による作品展。</li> <li>■入佐美南子／油画 『二科 京都支部展』日時:6月29日(火)～7月4日(日) 会場:京都市美術館(京都) 『第95回二科展』日時:9月1日(水)～13日(月) 会場:国立新美術館(東京)</li> <li>■イチハラヒロコ／油画 『イチハラヒロコ展』日時:7月4日(日)～9月8日(水) 会場:高知県立美術館(高知) 『胸騒ぎの夏休み イチハラ×やなぎ×ヤノベ×小沢=∞美術館で熱くなれ!』 日時:7月17日(土)～8月29日(日) 会場:福島県立美術館(福島) 『六甲ミーツ・アート「芸術散歩2010」』 日時:9月18日(土)～11月23日(火・祝) 会場:六甲山カントリーハウス周辺(兵庫)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■吉水絹代・兼先恵子・井俣慶人／染織 『日本新工芸』 日時:7月6日(火)～11日(日) 会場:京都市美術館(京都)</li> <li>■吉引ありさ／染織 『祇園祭展』 日時:6月15日(火)～7月31日(土) 会場:染・清流館(京都)</li> <li>■江村耕市／メディアデザイン 『キュピキュピと石橋義正 SickeTel』 日時:7月18日(日)～11月3日(水・祝) 会場:丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(香川)</li> <li>■佐川真紀／洋画・ミクストメディア 『芽生展』 日時:6月23日(水)～27日(日) 会場:京都文化博物館(京都)</li> <li>■松延総司／洋画・ミクストメディア 『Direction of Materials』 日時:6月11日(金)～8月8日(日) 会場:Super Window Project™ &amp; GALLERY(京都) 『ART OSAKA』(Super Window Project™ &amp; GALLERY) 日時:7月10日(土)、11日(日) 会場:堂島ホテル(大阪)</li> </ul>

## 附属博物館／附属ギャラリー「アトスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール

附属博物館	附属ギャラリー「アトスペース嵯峨」
<ul style="list-style-type: none"> <li>■『重要無形民俗文化財 嵯峨大念仏狂言展 ―装束と道具を中心に―』 日時:6月1日(火)～20日(日) 10時～17時 月曜休館 主催:京都嵯峨芸術大学 昨年度行った『嵯峨大念仏狂言展』に引き続き、今年度も嵯峨野の地に今も息づいている伝統芸能「嵯峨大念仏狂言」の装束と道具を中心に展示します。</li> <li>■『マリアンヌ・クルーゾ展(仮称)』 日時:10月10日(日)～11月6日(土) マリアンヌ・クルーゾ氏は詩人や作家の世界を版画、油画、パステル画などで表現したフランスの女性画家です。本展では、クルーゾ氏の挿画による豪華本、油画、パステル画などを展示します。 ※内容等変更になる場合があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『短大日本画専攻科展』 日時:10月25日(月)～31日(日) 13時～17時 無休 主催:短期大学部 美術分野 日本画研究室 ※展覧会スケジュールは変更になる場合があります。ご了承ください。</li> </ul>
連続公開講座「京の美意識」スケジュール	
<p>四季をおりなす美しい景観に恵まれ、都として約1200年にわたる歴史の時を刻んできた京都の独特の知恵や美意識について、毎回、各分野の第一線で活躍されておられる講師をお招きして、ご講演いただいています(参加無料)。また、ご希望の方には過去の講演録を販売しています(一冊千円)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■第53回6月12日(土)「瓦葺きの美学」 徳舛秀治&lt;薨技塾 徳舛瓦店(有)代表取締役&gt;</li> <li>■第54回7月10日(土)「浮世絵木版画の技術」 佐藤景三&lt;浮世絵版画摺師&gt;</li> <li>■第55回9月11日(土)「京館 よもやま話」 今西政博&lt;今西製菓(株) 専務取締役&gt;</li> <li>■第56回10月16日(土)「京都風呂敷七変化」 掛札英敬&lt;(有)京都掛札&gt;</li> <li>■第57回11月6日(土)「京の出版事情 観光ガイド今昔」 堤勇二&lt;京都学園大学非常勤講師&gt;</li> <li>■第58回12月11日(土)「鶴飼―鳥、人、川のつながりから―」 江崎洋子&lt;鶴匠・本学卒業生&gt;</li> <li>■第59回2011年2月19日(土)「螺鈿の魅力について」 野村守&lt;嵯峨螺鈿 野村&gt;</li> </ul> <p>※いずれの回も14:20～有響館G401教室にて。 お申込み・お問合せは文化事業部まで。TEL.075-864-7898</p>	

京都嵯峨野文化サロン 第9回企画	出版情報／メディアでの紹介
<p>旧嵯峨御所大覚寺門跡で平家の若者たちの想いを辿ってみませんか。</p> <p>テーマ:『平家物語』に見る平家の公達たち 日時:2010年10月2日(土)17時10分～ 場所:旧嵯峨御所 大覚寺門跡 講演:元木泰雄(京都大学教授) 公演:『清経』野田煥(サクセス)、宮崎青歌(尺八)、田中鶴旺(薩摩琵琶) ※お申込み方法等詳細は7月上旬に本学HPに掲載します! (お問合せは文化事業部TEL.075-864-7898まで。)</p>	<p>藤木庸介准教授が編集・著作した書籍が刊行 書籍名:生きている文化遺産と観光 住民によるリビングヘリテージの継承 編 著:藤木庸介 出版社:学芸出版社 定 価:2730円(税込) 発行日:2010年3月30日 ISBN:978-4-7615-2480-7</p> 

「編集後記」  
広報誌33号が完成しました。今回の特集では本学学長、副学長を交えて、学園創立40周年に関する記念事業や教育改編をテーマに対談いただきました。今号では対談の前半のみを掲載いたしました。次回の34号にて対談の後半を掲載する予定です。さて、学内はまもなく耐震補強工事の準備に入ります。在校生の命を守るべく夏休み期間は学内への立ち入りが禁止となりますが、工事終了後、キレイに様変わりする京都嵯峨芸術大学の姿に是非ともご期待ください。(広報室)

学校法人 大覚寺学園  

**京都嵯峨芸術大学**  
 大学院・芸術学部・短期大学部  


京都嵯峨芸術大学広報 第33号 2010年6月1日発行 編集:京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室  
 発行:学校法人 大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地  
 TEL.075-864-7859 FAX.075-881-7133 info@kyoto-saga.ac.jp www.kyoto-saga.ac.jp



## 特別対談企画 「学園創立40周年記念事業」 本格始動！

本学では今年度より、2011年の学園創立40周年に向けた記念事業及び記念イベントの取り組みと、学部・学科再編における教育改編が本格的に始動しています。今回は、三好学長ならびに本記念事業等に関わる教員の方々にお集まりいただき、記念事業・イベントの内容、教育改編など、それらの経緯や詳細等についてお話をうかがいました。

インタビュアー：松本泰章 教授

対談出席者：三好郁朗 学長、箱崎睦昌 副学長、  
増田洋 教授、北村正己 教授

### 松本広報室長

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。最初に、三好学長より学園創立40周年の事業計画や記念イベントの経緯を簡単にご説明いただきたいと思います。

### 三好学長

私は、学園創立40周年だからといって無意味なお祭り騒ぎだけで終わらせるのではなく、きちんと形に残せることをしなければならないと考えています。そこで今回は最も大きな事業として、老朽化の進んだ校舎の耐震補強工事並びに一部の改修美化工事、そして周辺環境整備を行うこととしました。また、本学は芸術系の大学ですから、先生方を中心として学生諸君とともに盛り上げていく展覧会の開催も希望しています。教職員や学生たちがここで日頃どんなことをやっているのかを見ていただく。そんな展覧会となるよう、しっかりと計画を進めていただきたいと思います。加えて私がいちばん期待しているのが学園史の編纂です。この大学がどのようにして誕生し、どのような歴史の中でここまで育ってきたのか。それをデータとしてひとつにまとめるということは、40周年の記念事業という枠を超えた大きな意義があるのではないのでしょうか。歴史がきちんとしていないところに、明日はないといわれます。ぜひこの機会に学内に保存されている貴重な資料を整理して、本学の歴史を次の世代へと引き継げる素晴らしい学園史を作りたいと強く願っています。

### 松本広報室長

ありがとうございました。学園史の編纂については、私もおおいに期待しています。それではもう少し具体的な事業内容について、40周年記念事業室の増田先生にお伺いしたいと思います。

### 増田先生

40周年記念事業室では、耐震補強工事・キャンパス整備事業、学園史の編纂、記念イベントの開催、募金活動の4つを進めています。まず、耐震補強工事・キャンパス整備事業では、築後35年近く経っている建物の安全性を高めながら、老朽化に伴い美観が損なわれてきたキャンパスイメージの向上を目指しています。同時に、校舎内の快適さと使い勝手の改善も考慮しつつ、緑を随所に配して自然との共生を目指した環境づくりも計画のひとつに盛り込みました。耐震補強の工法につきましては、他大学等の色々な事例を参考にしながら、経済的ではあるけれどデザイン性の乏しい斜めのブレース工法は避け、デザイン的にも優れた垂直水平の外付けブレース工法を採用することにしました。そのため、A棟とB棟に統一感ができ、非常にスマートな外観が生まれるだろうと楽しみにしています。キャンパス整備の具体案としましては、本学の南面のファサードを中心に緑化計画を施し、正門の位置も変え、自然の潤いに満ちたキャンパスを打ち出していきたいと考えています。さらに従来から本学の大きな課題でもあった玄関エントランスは吹抜けに改修することで開放的で心地よい空間となるように計画しています。実習A棟・B棟の公共の部分(廊下・階段・トイレ等)も新しくなりとても快適になるでしょう。工事の完成予定は9月末日ですが、キャンパス整備の終了は来年の3月頃となりそうです。

### 松本広報室長

ありがとうございました。確かに耐震補強のブレースがむき出しのままでは、常に工事現場にいるみたいで落ち着きませんよね。外見上はそれほど構造的な変化は見られないとしても、内実がしっかりとおさえられているので安心できます。先生方のご慮のおかげで快適性の向上も図られた、持続性のある計画であることが理解できました。それでは次に教育の改編について、まず芸術学部(四年制)の計画を箱崎先生にご紹介いただけます。

### 箱崎先生

本学のデザイン学科としては、これまでメディアデザイン学科と観光デザイン学科という、かなり領域を特化した分野編成でした。今回の改編では、総合デザイン学科として4系・7領域の編成を行います。現行のメディアデザイン、観光デザインが完全に無くなるという訳ではなく、その領域の良さを活かしながら新しい領域も加え、総合的なデザイン領域の編成としました。具体的には、メディアデザイン系、イラストレーション系、生活デザイン系、観光デザイン系という4つの系があり、この編成の中に7領域がそれぞれあります。メディアデザイン系の中にはグラフィックデザイン領域、映像・アニメーション領域、ウェブデザイン領域。イラストレーション系の中にはイラストレーション領域。生活デザイン系の中にはプロダクトデザイン領域とスペースデザイン領域。観光デザイン系の中には観光デザイン領域がそのまま残ります。このような編成にした理由は、これまで観光デザインという日本でも他にない領域を編成してきたものの、それなりの評価をいただけたとは思いますが、一般的にはどうしても限られた領域という認識が強く、観光領域の中での総合的なデザインだという位置付けがなかなか浸透しなかったからです。メディアデザインに関しては、一定の実績を積み上げてきているため大きな変更はありません。社会の流れの中でイラストレーションというものの存在感が強まり、本学においてもイラストレーションを系と領域として独立させたのはある面では大きな目玉でしょうか。以上、学科の組立部分だけを申しましたが、トータルコンセプトとして考えているのは「基礎デザインの充実」、つまりデザイン力の充実です。社会人力とか人間力につながるような形でのデザイン力、基礎のデザインの充実を基本的に図ろうと考えています。その方法として、例えばデザインの中にライティングディスカッションを入れるとか、プレゼンテーションを入れるとか。京都プロジェクトのような地域に根ざしたフィールドワークを活かしながらデザインを学ぶというスタイルも色々考えています。

### 松本広報室長

ありがとうございました。観光デザイン学科、メディアデザイン学科という新しい試みがこの総合デザインの中ですべて網羅され、バージョンアップしていくというイメージがすごく湧いてきます。10年目という新しい節目を迎えた芸術学部(四年制)が、また大きく育っていくことが想像できますね。では北村先生、短期大学部(二年制)のカリキュラム改革についてご説明いただけますか。

### 北村先生

短期大学部は、これまで本学の芸術学部を成長させた基礎として、より一層充実した内容を目指しています。具体的な変更につきましては、これまでデザイン分野の一領域であったマンガ領域をマンガ分野として独立させ、より質の高い教育を施すことのできる環境を整えました。また、美術分野の中に現代アート領域を新たに設け、現代性を加味した表現を目指す学生層を積極的に受け入れていきたいと考えています。短大全体のテーマとなるキーワードは、「INPUTとOUTPUT」です。すべてのカリキュラムの中で様々な要素を学習するINPUT、その学習した内容を社会や次の学習に表現していくOUTPUT。こうしたテーマをもとに、短大での学びをより明確にしていきたいと思っています。短大では、三年次編入や専攻科への進学など、就職活動に進むという様に多彩な進路があります。次の発展的なイメージをしっかりと持ってもらうことが大事ですから、そのために学生自身が学習のイメージ付けを明確にしてOUTPUTにつなげていかなければなりません。言うまでもなく短大は四年制大学と専門学校の狭間にあるため、私たち教職員による2年間のカリキュラムの性格付けが非常に重要となるのです。40周年という節目を機に、これからも教養科目をしっかりと充実させながら、四年制大学にも負けられない、また専門学校よりも高度な教養を身に付けることができる、短大ならではの密な教育を施していきたいと考えています。

### 松本広報室長

ありがとうございました。短大は本学の成長の基礎である。これは、すごくインパクトのある言葉ですね。実際、私たちが広報関連の仕事で卒業生たちを訪ねた際、様々なフィールドで活躍している人がずいぶんいます。東京へ出てプロとして十分やっている人、地元で頑張っている人。そういう誇るべき先輩たちを、短大時代から続々と輩出しているんですね。これから嵯峨芸大の卒業生たちが社会のあらゆる場で活躍できるよう、私たち教職員もがんばらなければいけないと思います。

(対談の後半は、次回34号へ続く)



